

長野県土地改良事業団体連合会会長賞

「農業と私たちの生活」

川上村立川上第二小学校

6年 今井 潤

ぼくの家はレタス農家で、野菜を食べていると「やっぱり、自分の家で作った野菜はうまい」と思います。ぼくの家で作った、レタス・ハクサイは、それぞれの家庭でどんな顔で食べられているのでしょうか。野菜を作っているとそんなことがとても気になります。それは、農家の人が消費者に新鮮で、安全・安心な野菜を食べてもらえるように、色々な工夫や苦勞をしているのを知ったからです。

安全に食べてもらうためにぼくの家では、虫が食べている野菜を売らないように消毒します。そして消費者が食べる時に、作物に農薬が残らないように農薬には量・期限が定められています。その取り決めを守りより安全な野菜を食卓に届けられるように日々注意しています。それに加えて防除日誌と言って、いつどのような農薬を使用したのか、全てを記録して農協に提出しています。もし問題があっても何が問題か分かるからです。次は土の工夫です。病気にかかりにくい野菜を作るために、畑の土を堆肥や大豆を使用して、土力を高める工夫をしています。元気な土からは、元気な野菜が出来るからです。又、出来るだけ新鮮な野菜を届けるために、朝暗いうちから収穫をしています。ぼくも夏休みに手伝いをしました。苗植え・出荷・水くれ色々な事を体験してとってもハードで予想以上の辛さにびっくりしました。農家の人が汗を流してとても苦勞して作った野菜を、みなさんには葉・くき一つ残らず大切においしく食べてほしいです。

でも、農業は苦勞ばかりではありません。ぼくが一番好きなのは、農村特有の風景です。それは、山の緑や作物の緑がいっぱいあって、そこに立っているとのみこまれそうな感じになります。又、山の空気はとてもいいにおいがします。言葉で表すのはとても難しいですが、すきとおったにおいがします。雨の日には、雨のにおいがします。冬の寒い朝は、空気が凍っているのを感じます。この自然のにおいは、ぼくが以前住んでいた埼玉では感じる事の出来なかったものです。

次に良いと思うのは、家族で過ごす時間が長いという事です。ぼくのお父さんは、農業をやる前に新聞社に勤めていました。朝早く家を出て、夜はぼくがねてから帰って来たので、晩ご飯を一緒に食べる事もあまりありませんでした。けれど今は、毎日一緒にご飯を食べる事が出来ます。又、時間があればキャッチボールもしてくれます。何よりも嬉しいのは、お父さんの仕事を手伝える事です。こうする事でお父さんがどんな仕事をしているか、どんな苦勞をしているかが分かるからです。

ぼくは、川上村の風景や家族と過ごすゆったりとした時間がとてもとても大好きです。